

中国魏晋南北朝における華中墳墓の類型的分析

戴 俊 英

はじめに

魏晋南北朝時代は、中国の歴史の中でも稀に見る激動と混乱の時代であった。そこでは軍閥間の抗争・地方政権の割拠・異民族の侵入を契機とした大規模な民族移動が見られ、頻繁に起こる政権交替・漢民族との関係を軸とする諸民族間の対立と融合があった。北方では曹魏・西晋・十六国・北魏・東魏・西魏・北齊・北周などの政権が興り、南方には東呉・東晋・宋・齊・梁・陳などの六朝があった。

華中は、南京とその周辺を中心とした長江下流域と、武漢を中心とした長江中流域とに分けられる。南京は都として、六朝の政治・経済・文化の中心であった。武漢は東呉の早期の都が置かれたためか、三国時代の墳墓が多い。これらのことから、両地域における墓制の様相を考察することによって、華中における当時の社会の実像に迫ることができるものと思われる。

一、華中墓葬についての従来の研究

従来の研究はそれぞれの視角から、個別に華中の墓葬について検討してきた。それら詳細な報告について、ここで簡単に紹介しておく。

1. 先行研究者による華中墳墓の記述

① 羅宗真氏は南京にある六朝の墳墓・埋葬制度を総述している〔文献1・文献2〕

a. “聚族而葬”の風俗習慣

南京市内北部にある富貴山を含む鐘山山脈は東晋における帝陵の地であった。『建康実録』にも、晋の十一人の皇帝のうち九人が、そこに埋葬されたとある。また、南齊・蕭梁兩朝の皇帝の故郷がともに丹陽（当時の南蘭陵）であったことから、齊・梁の諸帝は丹陽に族葬されている。さらに、豪族たちについても同様に族葬されたことが確認されている。

b. “風水宝地”の立地条件

墓地はすべて「背倚山峰、面臨平原」の条件に叶った“山冲”（山腹、山脊、頂上）を選んで設けられている。

c. 陵墓の内部構造

ア、開鑿墓壙、砌造墓室

長方形の墓壙を掘って、墓室を砌造している。すべて単室墓である。側室や前・後室の別は無い。墓頂は券頂（弧頂）と穹窿頂がある。また墓室は紋様磚や壁画磚で造られている。

イ、墓門はすべて石造りで、半円形の門額があり、その上に「人字拱」の浮彫がある。

ウ、すべての墳墓が墓前に長い排水溝を有している。

d. 副葬品と棺がある。

e. 封門の外、両側に封門壁と擋土壁がある。

f. 陵墓前方の地表には地面建築（享堂と石刻）が築かれている。

② 蒋賛初氏は六朝墳墓の構造と副葬品の変遷によって、長江中流域（湖南・湖北・江西）の墳墓を四つの時期に区分した〔文献3〕。

第一期：後漢から東呉まで

第二期：西晋から東晋初期まで

第三期：東晋の中・後期

第四期：南朝時代

第一期：大型墓には、甬道を附けた横前堂後室墓がよく見られる。前堂に一つもしくは二つの耳室が附いている。墓頂は券頂（弧頂）であり、穹窿頂も出現している。前堂に祭台を築き、後室には棺床を築いてある墳墓もある。排水溝の設けられた墳墓はあまり発見されていない。中型墓は、短い甬道を附けた単室券頂墓、即ち凸形単室墓と刀形単室墓である。長方形券頂の双室並列墓もある。墓頂は券頂が多い。墓室には、祭台・棺床・排水溝などの内部施設はほとんど発見されていない。小型墓は、甬道の無い、長方形単室墓である。墓頂は券頂と疊洪頂である。祭台・棺床・排水溝は無い。

第二期：全て中型墓で、短い甬道を附けた単室墓、即ち凸形単室墓であり、墓壁は外に弧出している。墓頂は券頂が多い。墓室に棺床が築かれたものは少ない。排水施設は方形の排水穴である。

第三期：凸形単室券頂墓が主であるが、刀形単室墓と無甬道長方形単室墓が中型墓でも小ぶりのものと小型墓に見られる。墓壁は外凸弧壁である。煉瓦の祭台・棺床・排水溝など墓室内の施設が盛んに築かれるようになった。

第四期：すべて大・中型墓であり、類型は凸形単室券頂墓が主である。墓壁は外凸弧壁で、墓室に棺床と排水溝を築き、劉宋期になると墓壁に小龕と直樞窓を築くようになる。墓磚は連瓣紋・網格紋・纏枝花葉紋などの紋様煉瓦である。

また蒋賛初氏は、墳墓の築造年次によって長江下流域（江蘇）の墳墓を三期に区分した〔文献4〕。

第一期：東呉及び西晋

第二期：東晋及び劉宋

第三期：南斉・蕭梁及び陳朝

第一期：墳墓の類型は“前穹後穹”あるいは“前穹後券”の双室墓が主であり、次いで券頂の単室附耳室、短い甬道が付く券頂の単室墓、甬道も耳室も無い券頂単室墓と続く。墓磚は曆年磚・緇席文・幾何・銭幣紋・蕉葉紋・青龍・白虎・朱雀・魚紋などの紋様煉瓦である。排水溝が出現し、西晋になってから特に多くなった。祭台も、西晋からは墓の前室に築かれるようになった。

第二期：凸形単室券頂墓または刀形単室券頂墓が主流になってきた。墓壁には凸形燈龕が築かれ、龕の下に直櫓仮窓を設けている。祭台と棺床はあまり盛んではない。劉宋期には磚で棺床を築いたものが多い。排水溝などの施設は完整なものになってきた。墓室には陰井が築かれ、陶製または銅製の漏水板・陶管が接続されている。墓外に水道を造っている。

第三期：この時期の大型墓は甬道の長い楕円形単室墓である。甬道には石門が築かれ、墓室には棺床・祭台・陰井が設けられている。墓壁には“桃形”燈龕が造られ、龕の下には直櫓窓が築かれている。甬道壁と墓壁は磚壁画で飾られている。墓壁は外に凸の弧壁である。中・小型墓は凸形単室券頂墓の類型が多い。甬道の無い長方形券頂墓もある。

また、蔣賛初氏は南京にある東晋の皇帝陵を調査・観察して、皇帝陵の構造的特徴について述べている〔文献5〕。

- a. 場所は小山の南斜面。すべて甬道を有する券頂単室墓、即ち凸字形墓である。
 - b. 墓室の長さは4-7mである。
 - c. 甬道に門が二ヶ所ある大型墓に棺床・凸形龕直櫓窓は無いが、甬道に門が一ヶ所しか無い大型墓には棺床も凸形龕直櫓窓も備わっている。
 - d. 甬道に門が二ヶ所ある大型墓には陰井が無いが、排水溝の施設はある。
 - e. 南京にある諸大墓のすべてに、はっきりした墓道がない。
- ③ 李蔚然氏は、南京における六朝の墓葬について論じ、墳墓を墓頂の形態によって平頂墓・券頂墓・凸字形券頂墓・穹窿頂墓・土坑墓の五つに分類した〔文献6〕。
- a. 平頂墓は平面が長方形であり、長さは3.1-3.9m、幅は0.66-0.82m、高さは1mで単葬墓と合葬墓に分けられる。墓頂は平頂で、墓磚には五銖錢紋がある。
 - b. 券頂墓 平面は長方形で、長さ4m・幅1m・高さ2mであり、墓磚には錢紋・繩蓆文がある。墓頂は券頂である。
 - c. 凸字形券頂墓 甬道を有する単室墓、即ち凸形単室墓であり、長さ4-7m・幅1.03-2.06m・高さ1.68-2.6mである。墓室の壁に凸形龕が、そしてその龕の下には直櫓窓が築かれており、墓室には棺床と祭台が設けられている。
 - d. 穹窿頂墓 単穹・双穹・前穹後券の三種に分類している。平面は凸字形であり、双室墓は双凸字形である。墓壁には直櫓仮窓、墓室には祭台と耳室が築かれているが、棺床は無い。墓磚は斜線紋である。
 - e. 土坑墓 堅穴式であり、長さ2.37m・幅0.63-0.79m・深さ0.82-2mである。券頂墓・凸字形券頂墓・穹窿頂墓には排水溝の施設がある。
- また李蔚然氏は、南京地区の六朝墓における墓地の選定と遺体の配置についても述べている〔文献7〕。
- a. 墓地の選定 高い所で、方位・風水が好い所を選ぶ。
 - b. 遺体の配置 尊者は居右、居前または居中である。

④ 馮普仁氏は南朝墓葬の類型について述べている〔文献8〕。

まず馮普仁氏は、南朝墳墓の磚室墓を形によって凸字形墓・刀形墓・長方形墓・多室墓の四つに分けた。更に、凸室形墓を規模と構造によって四型式に細分している。

I型墓：規模は大。長さは約13-15mあり、帝王陵墓である。甬道は長い。甬道中に石門が二ヶ所ある。墓頂は穹窿頂であり、墓壁に桃形燈龕と龕の下に直檻仮窓を、墓室には棺床を築き、棺床の前には石製の祭台を造って、棺床の前後には陰井が設けられ、それは排水溝に接続している。墓磚は紋様磚と磚壁画があり、墓室と甬道の外に擋土壁がある。

II型墓：長さは7-10mであり、王侯墓である。墓壁は外に凸の弧壁であり、甬道に石門が一ヶ所あり、墓頂は券頂であり、墓磚は紋様磚と磚壁画である。

III型墓：長さは4-7mであり、官僚士族墓である。南京地区のものは甬道に石門がない。墓室に棺床と祭台を築き、墓壁に壁龕を造り、墓頂は券頂であり、墓磚は素面磚である。

IV型墓：長さは4m以下であり、平民墓である。壁龕・棺床・排水溝については、いずれも設けられていない。

刀形墓は福建・浙江において盛んに造られ、長方形墓は江西・浙江・広東に分布している。また、多室墓は江西の吉安・贛県・余幹、福建の建甌、広東の始興、広西の梧州・融安で発見されている。

⑤ 徐萃芳氏は東晋・南朝の陵園制度について、次のような特徴を指摘している〔文献9〕。

- a. 「依山為陵」即ち山に長い土坑を造って、その上で墓室と墓道を築く。
- b. 墓室はすべて単室であり、墓室前の甬道には二ヶ所の石門を設け、墓室の底部から墓室外に向けて煉瓦で排水溝を築いている。
- c. 陵墓前の長い神道は地勢に従って山麓の平地に至る。神道の両側には石獸・石柱・石碑が立っている。
- d. 陵園の方向は同じではない。地勢に従う。

⑥ 楊弘氏は、安徽馬鞍山市で発見された、東呉において左大司馬・右軍師であった朱然の墓について研究しており、その墓の構造は次のようなものである〔文献10〕。

- a. 斜めに下がった長い羨道と短い甬道、前・後双室である。前室は正方形で穹窿頂、後室は長方形で券頂で、前室の両側には耳室が築かれている。
 - b. 棺は後室に置かれており、前室にも短い磚台が築かれている。
- その構造は中原における曹魏墓に似ており、中原からの影響を受けていると思われる。また、南京地区の西晋墓にも朱然墓と同様の例が認められる。

⑦ 葉驍軍氏は、墳墓の形状・副葬品の形態・器物（副葬品）の器種構成を基に中国南部の墳墓群を長江中下流域・閩広地域・西南地域に三分した上で、それぞれの特徴について述べている。ここでは、長江中・下流域について取り上げる〔文献11〕。

長江中・下流域の墳墓群における副葬品の下位分類と墳墓類型

副葬品は、4 類型15形式に分類することが出来る。以下に、その4 類型を示す。

第一類 (生活用具) : 瓮・罐・碗・耳杯・長頸壺・炉

第二類 (模型明器) : 倉・竈・井・碓房・磨盤など

第三類 (陶俑) : 鎮墓獸・男女俑・家畜家禽

第四類 (その他) : 虎子・兵器・銅鏡・銅銭・金銀装飾品・様々な彩色罐など

I 型墓 : 長方形券頂磚室墓で、墓室は前・中・後室に分けることが出来る。長さは9メートル以上あり、副葬品は四類型の総てが備わっている。

II 型墓 : 長方形磚室墓で、長さは6メートル前後。概ね、墓室は前・後室の2つに分けることが出来る。四隅から持ち送り式の穹窿頂であり、副葬品は四類型の総てが備わっている。

III 型墓 : 長方形券頂磚室墓。概ね単室で、長さは3メートル前後。副葬品は四類型の総てが備わっているが、三・四類のものは少ない。

IV 型墓 : 竪穴式の土壌墓。墓室の長さは、概ね2.5メートル以下。副葬品は第一類のみで、数量も少ない

2、先行研究における問題点

① 羅宗真氏は南朝の皇帝陵の造営方法・墓室の構造について述べているが、墓室の構造が時間の経過と共に変化することを重視していないという問題がある。

② 蔣賛初氏は長江中流域 (湖南・湖北・江西) の六朝墓を四期に、長江下流域 (江蘇) の六朝墓を三期に区分したが、墓室の類型と構造の変化が明らかでなく、墳墓の規模と築造年次による編年は十分とは言えない。

③ 李蔚然氏は墓頂の形態によって六朝期の墳墓を分類しているが、六朝墳墓の時代性や地域性についての全体的かつ総合的な展望に乏しい。

④ 馮普仁氏は南朝磚室墓の凸字形墓を規模によって四型に区分したが、規模によって墳墓の序列を決めているという問題がある。また、凸字形磚室墓における墓壁の平直から外弧への変化や墓磚紋様の違いによる編年は十分とは言えない。

⑤ 徐萃芳氏は東晋・南朝の陵園制度について概説しているが、具体例が非常に少ないという問題がある。

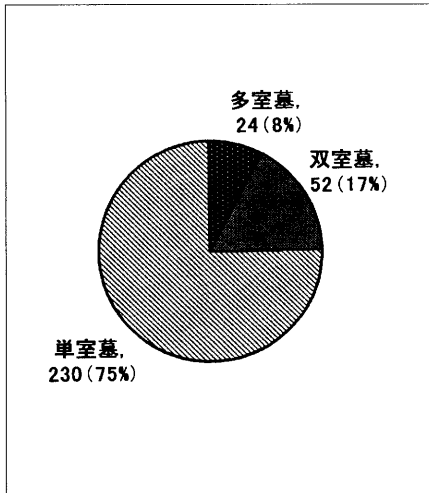
⑥ 楊泓氏は安徽馬鞍山東吳朱然墓を研究しているが、南朝墳墓における全体構造・具体的な項目・時期的変遷・地域的多様性についての検討は、あまり進んでいない。

⑦ 葉驍軍氏は、規模の大きさによって墳墓を分類する。墳墓の規模は墓主の身分・地位など階層による較差を表し得るが、時系列上の変化や地域的な差異が反映されているとは言えず、この分類方法は不十分であると思われる。

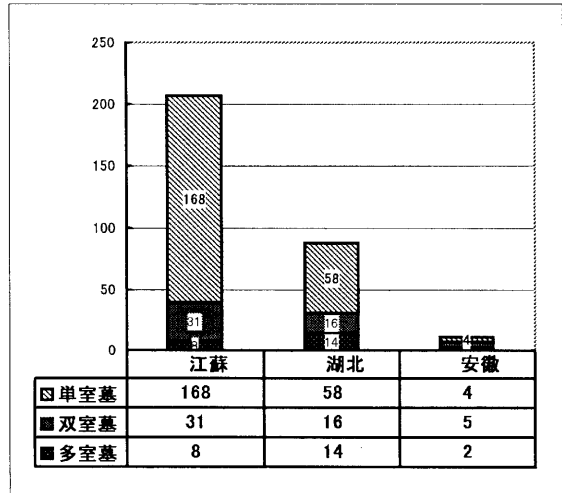
二、華中墓葬についての筆者の見解

魏晋南北朝期における華中の墳墓については新しく発掘された資料が少なからずあり、これまでに蓄積されたものと併せて再整理し、新たに分析し直す必要を筆者は感じている。集成した墳墓データを厳密に整理し直してグラフと図表を作成し、先行研究を踏まえた上で墳墓の編年を再検討して魏晋南北朝期の華中地域（江蘇・安徽・湖北）における墳墓研究に新たな展望を示したい。

集成資料より、検出された墳墓の総数は306基である。そのうち多室墓は24基あり、墳墓総数の8%にあたる（図一）。内訳は江蘇8基・湖北14基・安徽2基である（図二）。双室墓は52基で、これは墳墓総数の17%にあたる（図一）。内訳は江蘇31基・湖北16基・安徽5基（図二）。これらに対して単室墓は230基もあり、墳墓総数の実に75%を占めている（図一）。単室墓の内訳は江蘇に168基、湖北に58基、安徽に4基である（図二）。以上のことから、総数においても省別の内訳においても単室墓の占める割合の大きいことがわかる。



図一 多室・双室・単室墓総数の比較



図二 多室・双室・単室墓数の省別比較

1. 多室墓

(1) 多室墓の型式 多室墓24（江蘇8・湖北14・安徽2）基

多室墓の平面のあり方によって、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの3型式に区分する（表1・図四）。

Ⅰ型：前後双室縦列附側室 16基

Ⅰ-1：前後双室縦列片側附耳室 4基

Ⅰ-1-a：前後双室縦列、後室附片耳室 1基

江蘇呉県獅子山1号西晋墓（295年）〔文献12〕〈図四-1〉はその例である

Ⅰ-1-b：前後双室縦列、前室附片耳室 2基

表1 魏晋南北朝華中地区墓室類型一覽表

対象墳墓総数			江蘇	湖北	安徽	計	
			207	88	11	306	
多 室 墓	墳墓総数			8	14	2	24(8%)
	I型 (前後双室縦列附側室)	I-1 (前後双室縦列、片側附耳室)	I-1-a (後室附片耳室)	1			4
			I-1-b (前室附片耳室)	1		1	
			I-1-c (前室附片耳室、甬道附両耳室)	1			
		I-2 (前後双室縦列、両側附耳室)	I-2-a (前室附両耳室)	2	6		11
			I-2-b (前室附三耳室)	1			
			I-2-c (前室附両耳室、甬道附両耳室)		1		
			I-2-d (甬道附両耳室)	1			
		I-3 (前後双室縦列、後室附両耳室、前室附三耳室、甬道附片耳室)			1		1
		II型 (三室縦列、或並列)	II-1 (前中後三室縦列、甬道附両耳室)			1	
	II-2 (前單室後双室縦列)		II-2-a (前單室後双室縦列)	1	1	1	4
			II-2-b (前單室後双室縦列、前室附片耳室)		1		
	II-3 (長方形三室並列)			1		1	
	III型 (二つ組並列連接)	III-1 (刀形室附片耳室二つ組並列連接)			1		2
		III-2 (前後双室縦列、前室附片耳室二つ組並列連接)			1		

江蘇南京鄧府山東吳墓〔文献13〕〈図四-2〉、安徽和县西晋太康九年墓(288年)〔文献14〕〈図四-21〉などはその例である。

I-1-c: 前後双室縦列、前室附片耳室、甬道附両耳室 1基

江蘇南京上坊東吳天冊元年墓(275年)〔文献15〕〈図四-3〉は、その例である。

I-2: 前後双室縦列両側附耳室 11基

I-2-a: 前後双室縦列、前室附両耳室 8基 その代表例は次のとおりである。

江蘇南京郭家山東吳陳重今墓(259年)〔文献16〕〈図四-4〉、揚州胥浦西晋墓M93(297年)〔文献17〕〈図四-5〉、湖北武漢任家湾東吳黃武六年墓(227年)〔文献18・19〕〈図四-9〉、鄂州東吳威遠將軍孫隣墓(249年)〔文献20〕〈図四-10〉、鄂州東吳晚期武昌督孫述將軍墓〔文献21〕、武漢蓮溪寺東吳永安五年墓(262年)〔文献19・22〕〈図四-11〉、武漢黃陂灑口吳末晋初墓〔文献23〕〈図四-12〉、襄陽王湾魏晋墓〔文献24〕。

I-2-b: 前後双室縦列、前室附三耳室 1基

江蘇南京西岡吳末晋初墓〔文献25〕〈図四-6〉は、その例である。

I-2-c: 前後双室縦列、前室附両耳室、甬道附両耳室 1基

湖北武漢江夏流芳東吳晚期墓〔文献26〕〈図四-13〉は、その例である。

I-2-d: 前後双室縦列、甬道附両耳室 1基

江蘇泗陽打鼓墩曹魏樊氏画像石墓〔文献27〕〈図四-7〉はその例である。

I-3: 前後双室縦列、後室附非対称両耳室、前室附三耳室、甬道附片耳室 1基

湖北鄂州鄂鋼綜合原料場吳末晋初墓M30〔文献28〕〈図四-14〉は、その例である。

II型: 三主室縦列、または三主室並列 6基

II-1: 前・中・後三主室縦列、甬道附両耳室 1基

湖北襄樊襄陽魏末晋初墓〔文献29〕〈図四-15〉は、その例である。

II-2: 前单室、後双室縦列 4基

II-2-a: 前单室、後双室縦列 3基

江蘇揚州胥浦東吳孫少父墓(M70)〔文献17〕〈図四-8〉、湖北通城高冲錢塘2号西晋墓〔文献30〕〈図四-16〉、安徽青陽西晋墓〔文献31〕〈図四-22〉が、その例である。

II-2-b: 前单室後双室縦列、前室附片耳室 1基

湖北老河口李樓西晋泰始九年墓(273年)〔文献32〕〈図四-17〉は、その例である。

II-3: 長方形三室並列 1基

湖北鄂州澤林南朝梁陳墓(M9)〔文献33〕〈図四-18〉は、その例である。

III型: 二組並列連接 2基

III-1: 刀形室附片耳室、二組並列連接 1基

湖北隨県唐鎮曹魏墓M3〔文献34〕〈図四-19〉は、その例である。

III-2: 前後双室縦列前室附片耳室、二組並列連接 1基

湖北鄂州塘角頭六朝東吳墓M2(261年)〔文献35〕〈図四-20〉は、その例である。

(2) 多室墓の分布地域(図三-▲) 江蘇省: 南京、揚州、泗陽、呉県。湖北省: 武漢、鄂州、通城、老河口、襄樊、棗陽、隨県。安徽省: 和県、青陽。

表2 魏晋南北朝華中地区墓室類型一覽表

対象墳墓総数			江蘇	湖北	安徽	計	
			207	88	11	306	
双 室 墓	墳墓総数		31	16	5	52(17%)	
	I型 (单室附耳室)	I-1 (長方凸形单室附耳室)	2	1	2	7	
		I-2 (方凸形单室附耳室)	2				
	II型 (前後双室縦列)	II-1 (長方双凸形室縦列)	II-1-a (直長方双凸形室縦列)	16	5	1	36
			II-1-b (弧長方双凸形室縦列)	6		1	
		II-2 (前凸後刀形室縦列)			1		
		II-3 (長方形双室縦列)		3	2	1	
	III型 (左右双室並列)	III-1 (長方双凸形室並列)		1			9
		III-2 (長方形双室並列)		1	7		

2. 双室墓

(1) 双室墓の型式 双室墓52基 (江蘇31・湖北16・安徽5)

双室墓の平面のあり方によって、I・II・IIIの3型式に区分する (表2・図五)。

I型：単室附耳室 7基

I-1：長方凸形単室附片耳室 5基

江蘇江寧趙史岡東吳墓M7〔文献36〕〈図五-1〉、南京長崗村五号吳末晋初墓〔文献37〕〈図五-2〉、湖北蕪春蕪州土台1号西晋墓〔文献38〕〈図五-19〉、安徽合肥東郊西晋墓 (M1)〔文献39〕〈図五-30〉は、その例である。

I-2：方凸形単室附片耳室 2基

江蘇南京北郊郭家山東吳墓M6 (261年)〔文献16〕〈図五-3〉、南京大学東晋帝陵〔文献40〕〈図五-4〉はその例である。

II型：前後双室縦列 36基

II-1：長方双凸形室縦列 29基

II-1-a：直壁長方双凸形室縦列 22基 (江蘇16・湖北5・安徽1)

江蘇南京幕府山五鳳元年墓M2 (254年)〔文献15〕〈図五-5〉、南京殷巷吳墓〔文献15〕、南京甘家巷東吳墓M29 (271年)〔文献41〕、南京東善橋鳳凰三年墓 (274年)〔文献42〕〈図五-6〉、江寧官家山吳晋墓〔文献43〕、南京柳塘村西晋墓 (285年)〔文献13〕〈図五-7〉、江寧張家山西晋元康七年墓 (297年)〔文献44〕〈図五-8〉、南京板橋鎮西晋侯氏墓 (302年)〔文献45〕、南京東晋謝鯤墓 (324年)〔文献46〕〈図五-9〉、鎮江東晋墓M5 (333年)〔文献47〕〈図五-10〉、鎮江東晋晚期墓 (M35)〔文献47〕、鄂州鄂城鉄M105東吳初墓〔文献48〕〈図五-20〉、宜昌一中東吳墓〔文献49〕〈図五-21〉、湖北鄂州塘角頭吳中晚期墓 (M4)〔文献35〕〈図五-22〉、鄂州石山農機廠西晋墓M2〔文献50〕〈図五-23〉、安徽馬鞍山東吳朱然墓 (249年)〔文献51〕〈図五-31〉などが代表例である。

II-1-b：孤壁長方双凸形室縦列 7基

江蘇金壇県方麓東吳墓 (260年)〔文献52〕〈図五-11〉、宜興西晋平西將軍周処墓 (297年)〔文献53〕〈図五-12〉、吳県獅子山4号西晋中晚期墓〔文献54〕、鎮江東晋画像磚墓 (398年)〔文献55〕〈図五-13〉、安徽馬鞍山桃冲村西晋墓M3 (308年)〔文献56〕〈図五-32〉などはその代表である。

II-2：前凸後刀形室縦列 1基

湖北均県西晋初墓M2〔文献57〕〈図五-24〉は、その例である。

II-3：長方形双室縦列 6基

揚州胥浦吳末晋初墓M89〔文献17〕〈図五-14〉、江蘇句容西晋元康四年墓 (294年)〔文献58〕〈図五-15〉、江寧黃家營東晋墓M5〔文献59〕〈図五-16〉湖北枝江巫回台東晋中期墓〔文献60〕〈図

五-25)、公安県東晋墓〔文献61〕〈図五-26〉、安徽馬鞍山桃冲村西晋墓M 2 (316年)〔文献56〕
 〈図五-33〉などは、その例である。

Ⅲ型：左右双室並列 9基

Ⅲ-1：長方双凸形室並列 1基

江蘇南京板橋鎮楊家山西晋墓〔文献62〕〈図五-17〉は、その例である。

Ⅲ-2：長方形双室並列 8基

江蘇南京富貴山南朝中晩期墓M 3〔文献63〕〈図五-18〉、湖北武漢東西湖柏泉農場西晋早期墓M 7〔文献64〕〈図五-27〉、鄂州塘角頭東晋中晩期墓M12〔文献35〕〈図五-28〉、黄冈鉛廠南朝中晩期墓〔文献65〕、鄂州市澤林齊末梁初墓M 5〔文献33〕〈図五-29〉などはその代表例である。

- (2) 双室墓の分布地域(図三-■) 江蘇省：南京、江寧、揚州、鎮江、句容、金壇、宜興、呉県。
 湖北省：武漢、黄冈、鄂州、蕪春、宜昌、枝江、江陵、公安、均県。安徽省：合肥、馬鞍山。

表3 魏晋南北朝華中地区墓室類型一覽表

対象墳墓総数			江蘇	湖北	安徽	計
			207	88	11	306
墳墓総数			168	58	4	230(75%)
单室墓	Ⅰ型 (長方凸形单室)	Ⅰ-1 (直壁長方凸形)	74	23	3	151
		Ⅰ-2 (弧壁長方凸形)	25		1	
		Ⅰ-3 (長楕円凸形)	25			
	Ⅱ型 (方凸形单室)	Ⅱ-1 (直壁方凸形)	2			6
		Ⅱ-2 (弧壁方凸形)	2	2		
	Ⅲ型 (長方刀形单室)		12	8		20
	Ⅳ型 (長方形单室)	Ⅳ-1 (長方形)	28	23		53
Ⅳ-2 (長方台形)			2			

3. 单室墓

- (1) 单室墓の型式 单室墓230基(江蘇168・湖北58・安徽4)

单室墓の平面のあり方によって、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの4型式に区分する(表3・図六)。

Ⅰ型：長方凸形单室墓 151基(江蘇124・湖北23・安徽4)

Ⅰ-1：直壁長方凸形单室墓 100基(江蘇74・湖北23・安徽3) その代表例は次のようである。

江蘇南京幕府山五鳳元年墓M 1 (254年)〔文献15〕〈図六-1〉、南京獅子山1号西晋墓〔文献66〕、南京象山東晋王興之夫婦墓(348年)〔文献67〕〈図六-2〉、南京幕府山東晋孝宗穆帝永平陵(361年)〔文献68〕〈図六-3〉、南京栖霞区東晋王彬妻夏金虎墓(392年)〔文献69〕〈図六-4〉、南京五塘村東晋晩期墓〔文献70〕、南京太平門劉宋明曇喜墓(474年)〔文献71〕〈図六-

一5)、江寧東善橋陳帝陵〔文献72〕〈図六一6〉、湖北宜昌前坪包金頭三国墓M9〔文献73〕〈図六一33〉、武漢東西湖柏泉農場西晋早期墓M1〔文献64〕、宜昌樵湖嶺西晋中晚期墓〔文献74〕〈図六一34〉、枝江東晋上官参軍劉佳墓(345年)〔文献75〕〈図六一35〉、武昌水果湖劉宋墓M206(455年)〔文献76〕〈図六一36〉、武昌水果湖蕭齊墓M193(485年)〔文献76〕〈図六一37〉、房県郭家庄南齊墓(492年)〔文献77〕〈図六一38〉、武漢黄陂横店南朝陳墓〔文献78〕、安徽南陵麻橋東吳墓(245年)〔文献79〕〈図六一54〉、馬鞍山佳山東吳墓〔文献80〕、滁州全淑県卜集東吳墓〔文献81〕〈図六一55〉。

I-2: 孤壁長方凸形单室墓 26基 (江蘇25・安徽1)

南京仙鶴觀東晋早期高悝夫婦墓〔文献82〕〈図六一7〉、鎮江東晋墓M1(325年)〔文献47〕〈図六一8〉、南京仙鶴觀高崧夫婦墓(356年)〔文献82〕〈図六一9〉、南京仙鶴觀東晋晚期高耆夫婦墓〔文献82〕、南京司家山謝温墓(406年)〔文献83〕〈図六一10〉、南京富貴山東晋恭帝冲平陵(421年)〔文献84〕〈図六一11〉、南京劉宋謝琬墓(421年)〔文献85〕〈図六一12〉、安徽馬鞍山桃冲村東晋墓M1〔文献56〕〈図六一56〉などはその代表例である。

I-3: 長楕円凸形单室墓 25基 この類型の墳墓はすべて江蘇省にあり、その例を次に挙げる。

江蘇无錫赤墩里東晋墓(370年)〔文献86〕〈図六一13〉、溧陽東晋謝鏞墓(374年)〔文献87〕〈図六一14〉、鎮江諫壁東晋中晚期墓M25〔文献88〕、南京西善橋劉宋孝武帝景寧陵(464年)〔文献89〕〈図六一15〉、丹陽齊景帝蕭道生修安陵(494年)〔文献90〕〈図六一16〉、丹陽齊和帝蕭宝融恭安陵(502年)〔文献91〕〈図六一17〉、南京白龍山梁臨川靖惠王蕭宏墓(526年)〔文献92〕〈図六一18〉、南京堯化門梁南平王蕭偉墓(533年)〔文献93〕〈図六一19〉、南京甘家巷梁永陽昭王蕭敷墓(557年)〔文献94〕〈図六一20〉、南京西善橋梁黄法氍墓(576年)〔文献95〕、南京西善橋陳宣帝顓寧陵(582年)〔文献96〕〈図六一21〉。

II型: 方凸形单室墓 6基

II-1: 直壁方凸形单室墓 2基

江蘇南京郭家山東晋早期王氏墓(M4)〔文献97〕〈図六一22〉、南京東晋始安公温嶠墓(329年)〔文献98〕〈図六一23〉は、その例である。

II-2: 孤壁方凸形单室墓 4基

江蘇南京象山東晋早期王彬兄王虞墓(M7)〔文献69〕〈図六一24〉、吳県何山東晋墓〔文献99〕〈図六一25〉、湖北均県西晋初墓M1〔文献57〕〈図六一39〉、丹江玉皇廟西晋元康九年墓(299年)〔文献100〕〈図六一40〉などは、その例である。

III型: 長方刀形单室墓 20基

江蘇揚州胥浦西晋墓M94(299年)〔文献17〕〈図六一26〉、鎮江東晋中期墓M20〔文献47〕〈図六一27〉、揚州胥浦東晋劉宋墓M13〔文献17〕〈図六一28〉、湖北漢陽蔡甸一号西晋墓〔文献101〕〈図六一41〉、鄂州石山農機廠西晋墓M1〔文献48〕〈図六一42〉、蒲圻赤壁西晋金氏墓(305年)〔文

献102) 〈図六-43〉、武漢市金口東晋中期墓M1〔文献103〕〈図六-44〉、丹江口武当山玉虚宮東晋墓〔文献104〕〈図六-45〉、武昌水果湖劉宋墓M101(450年)〔文献76〕〈図六-46〉などは、その例である。

IV型：長方形单室墓 53基

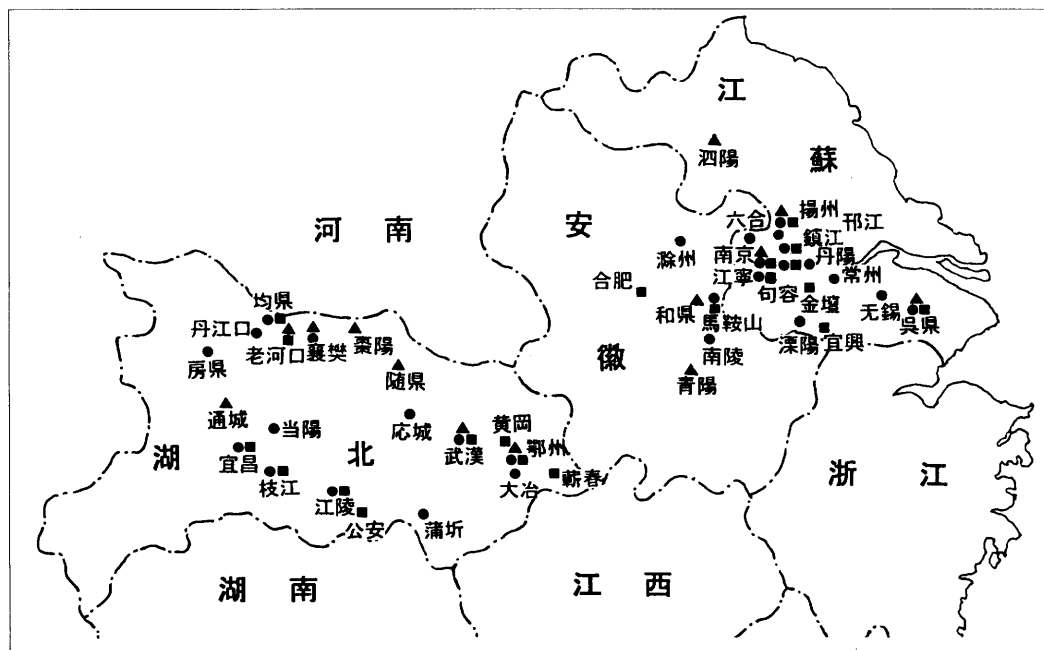
IV-1：長方形单室墓 51基 その代表例は、次のとおりである。

江蘇南京江寧趙史岡東吳墓M4〔文献36〕〈図六-29〉、南京栖霞山甘家巷西晋墓M10〔文献41〕〈図六-30〉、鎮江東晋早期墓M4〔文献47〕〈図六-31〉、南京象山東晋王彬長女王丹虎墓(359年)〔文献105〕〈図六-32〉、湖北鄂城82百子畷東吳末西晋初墓M18〔文献106〕〈図六-47〉、大冶河口鎮西晋墓〔文献107〕〈図六-48〉、鄂州五里墩東晋中晚期墓M2〔文献108〕〈図六-49〉、応城楊嶺梁天監十七年墓(518年)〔文献109〕〈図六-50〉、大冶市金龜山南朝墓〔文献110〕〈図六-51〉。

IV-2：長方台形单室墓 2基

湖北鄂州五里墩西晋末東晋墓M10〔文献108〕〈図六-52〉、鄂州五里墩東晋墓M7〔文献108〕〈図六-53〉は、その例である。

(2) 单室墓の分布地域(図三一●) 江蘇省：南京、江寧、六合、揚州、邗江、鎮江、句容、丹陽、常州、无錫、吳県、溧陽。 湖北省：武漢、鄂州、大冶、応城、蒲圻、江陵、枝江、宜昌、当陽、房県、丹江口、均県、襄樊。 安徽省：滁州、馬鞍山、南陵。



図三 多室・双室・单室墓分布図

▲ 多室墓 ■ 双室墓 ● 单室墓

おわりに

以上、華中地域（江蘇・湖北・安徽）の墳墓群について整理・検討した結果、この地域にどのような墓が築かれ、当時どのような形式の墓が盛んだったかについての概観が得られた。また華中全体には影響を及ぼさないものの、下位の地域単位ごとの独自性を色濃く反映した有力な墳墓形式などの消長も見られた。以下においては、主として埋葬様式の地域的差異とそれを共有する地域単位について考察するものである。

1. 華中地域の共通性

第1に、埋葬施設。墓槨が消え、すべて墓室になった。それらはほぼ横穴式の墓室である（附表）。

第2に、多室墓・双室墓・単室墓が共存しているものの、単室墓が圧倒的多数を占めるという事実である。集成した資料によると、墳墓総数306基のうち24基が多室墓で全体の8%にあたり、双室墓は52基で同じく17%にあたり、両方を加えても25%にしかならない。これに対して単室墓は230基あり、これは墳墓数全体の実に75%に当たる。各省においても単室墓の割合が多い。

第3に、並列の多室・双室墓が16基あるのが目立つ（江蘇3基・湖北12基・安徽1基）。

第4に、墳墓の構造は概して単純なもので、帝后陵であっても双室墓や単室墓である。双室墓は1基しかないし、規模も小さい。玄室の長さは5-10mで、幅も2.6-7m、高さは6.7mを越えない。その代表的な例を次に示す。

- ①江蘇南京幕府山東晋孝宗穆帝永平陵（361年）〔文献68〕〈附表江蘇省-58〉は長方凸形単室墓。玄室の長さは5.5mで、幅は2.6m、高さは3.1mある。
- ②南京富貴山東晋恭帝冲平陵（421年）〔文献84〕〈附表江蘇省-102〉は弧長方凸形単室墓で玄室の長さは7.1m、幅・高さとも5.2mである。
- ③南京西善橋劉宋孝武帝劉駿寧陵（464年）〔文献89〕〈附表江蘇省-104〉は長楕円凸形単室墓で玄室の長さが6.9mあり、幅は3.1m、高さは3.5mである。
- ④江蘇丹陽胡橋齊景帝蕭道生修安陵（494年）〔文献90〕〈附表江蘇省-200〉は長楕円凸形単室墓で玄室の長さは9.4m、幅4.9m・高さ4.4mである。
- ⑤丹陽胡橋齊和帝蕭宝融恭安陵（502年）〔文献91〕〈附表江蘇省-202〉は長楕円凸形単室墓で、玄室は長さ8.2m・幅5.2m・高さ5.1mである。
- ⑥南京西善橋陳宣帝顛寧陵（582年）〔文献96〕〈附表江蘇省-132〉は長楕円凸形単室墓で、玄室は長さ10m・幅6.7m・高さ残6.7mである。

王侯・嬪妃墓についても同様で、すべて単室墓である。玄室の長さ4-8m、幅1.3-4m、高さ6mを越えない。その代表的な例を次に示す。

- ①江蘇南京東晋肅侯王彬妻夏金虎墓（392年）〔文献69〕〈附表江蘇省-63〉は長方凸形単室墓で、玄室は長さ4.4m・幅1.3m・高さ1.9mである。

- ②南京栖霞山蕭梁安成康王蕭秀墓（518年）〔文献41〕〈附表江蘇省－113〉は長楕円凸形単室墓で、玄室は長さ6.3m・幅3.3m・高さ3.7mである。
- ③南京白龍山梁臨川靖惠王蕭宏墓（526年）〔文献92〕〈附表江蘇省－116〉は長楕円凸形単室墓で、玄室は長さ7.7m・幅3.9m・高さ5.3mである。
- ④南京克化門梁南平王蕭偉墓（533年）〔文献93〕〈附表江蘇省－118〉は長楕円凸形単室墓で、玄室は長さ6.2m・幅3.5m・高さ4.4mである。
- ⑤南京甘家巷蔡家塘梁永陽昭王蕭敷墓（557年）〔文献94〕〈附表江蘇省－130〉は長楕円凸形単室墓。玄室は長さ5.8m・幅3.1mで、高さは不明である。

第5に、墓壁には直壁と弧壁とがあるが、帝后陵や王侯・公主墓には弧壁のものが多い（附表）。江蘇南京大學東晉帝陵（東晉早期）〔文献40〕・南京幕府山東晉孝宗穆帝永平陵（361年）・南京幕府山東晉帝陵M3〔文献111〕・南京江寧東善橋陳帝陵〔文献72〕は直壁墓であるが、南京幕府山東晉帝陵M4〔文献111〕・南京北郊東晉帝陵（東晉中晩期）〔文献112〕・南京富貴山東晉恭帝冲平陵（421年）・南京西善橋劉宋孝武帝劉駿景寧陵（464年）・江蘇丹陽胡橋齊景帝蕭道生修安陵（494年）・丹陽建山齊廢帝東昏侯蕭宝卷墓（501年）〔文献91〕・丹陽胡橋齊和帝蕭宝融恭安陵（502年）・南京西善橋陳宣帝顯寧陵（582年）は弧壁墓である。王侯・嬪妃墓は弧壁墓が多く、9基のうち7基がそうであるが、直壁墓も2基ある。

2. 墳墓の類型上の特性をいくつか指摘することができる。

第1に、湖北では多室・双室・単室の直壁長方形墓が顕著であるが、88基のうち81基は直壁長方形墓である。

第2に、江蘇で弧壁長方凸形単室墓、特に長楕円凸形単室墓が見られる点は注目される。

以上、指摘した点については華北の各地域についても同様であることに留意したい。このことは墳墓の型式に地域間の関連を裏付けるものであり、生活観及び生活様式の共通性をも併せ持つものである。そうした特別な性格の墳墓類型に見られる共通性は、当時の社会のある側面をも反映しているとも見られる。さらには、地域間に共通した政治的・宗教的な指導原理の存在を暗示するとも考えられる。

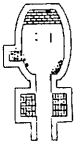

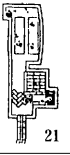
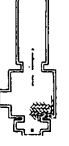



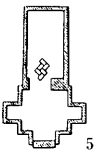
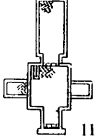
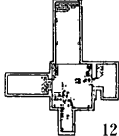
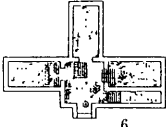
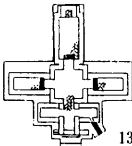
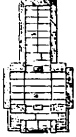
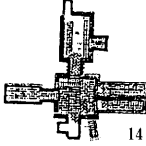
魏晋南北朝期における墳墓の類型には、地域を乗り越えた共通性が認められる一方で地域的な特性が存在するのも事実である。墳墓類型に現れる地域性には二つの側面があると思われる。一つは地域における類型上の特質を受け継いでいること、つまり、地域社会における伝統の保持ということである。この点では、湖北における直壁長方形墓が漢代の伝統的墓制を継承して、盛んにおこなわれているという事実を挙げることができよう。




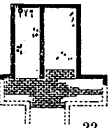
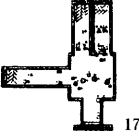


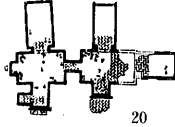
もう一つは、ある地域の墳墓類型が他地域と同様の変容を遂げながら、一部については異なった特色を示すということである。例えば江蘇の弧壁長方凸形単室墓、特に長楕円凸形単室墓がその顕著な例である。

ここまで、華中の墳墓について地域的な差異を中心に見てきた。これまで明らかになったことに基に、

墳墓の形態的特徴を構成する諸要素間の承継関係を明らかにすることができると思われる。それらを総合して、時代によって墳墓がどのように変わっていったか、ということを明らかにすることは後稿に譲ることとしたい。







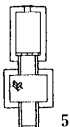
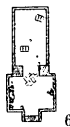
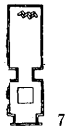
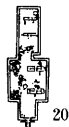

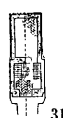
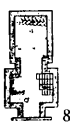
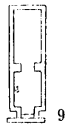


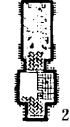


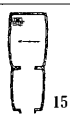

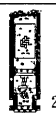



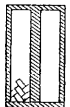



注　：相応する訳語の見当たらない術語については、中国におけるものをそのまま用いた。

類 型		江 蘇	湖 北	安 徽	
I 型 (前後双主室縦列附側室)	I-1 前後縦列片側附耳	I-1-a 後室附片耳  1			
		I-1-b 前室附片耳  2		 21	
		I-1-c 前室附片耳甬道附兩耳  3			
	I-2 前後縦列兩側附耳	I-2-a 前室附兩耳  4	 9	 10	
			 5	 11	 12
		I-2-b 前室附三耳  6			
		I-2-c 前室附兩耳甬道附兩耳  13			
	I-2-d 甬道附兩耳  7				
	I-3 前後縦列、後室附兩耳 前室附3耳甬道附片耳  14				

類 型		江 蘇	湖 北	安 徽
II 型 (三室縦列、或並列)	II-1 前中後室縦列 甬道附兩耳			
	II-2 前 單 室 後 雙 室 縦 列			
	II-2-a 前單後雙縦列			
	II-2-b 前單後雙縦列 前室附片耳			
II-3 長方形三室並列				
III 型 (二組並列連接)	III-1 刀形室附片耳 二組並列連接			
	III-2 前後縦列前室附片耳 二組並列連接			

図四 多室墓類型図 (縮尺不統一、以下同じ)

- | | | |
|------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1. 江蘇吳縣獅子山1号西晋墓(295年) | 9. 湖北武漢任家灣東吳墓(227年) | 16. 湖北通城高冲錢塘2号西晋墓 |
| 2. 江蘇南京鄧府山東吳墓 | 10. 湖北鄂州東吳威遠將軍孫隣墓(249年) | 17. 湖北老河口李樓西晋墓(273年) |
| 3. 江蘇南京上坊東吳天册墓(275年) | 11. 湖北武漢蓮溪寺東吳墓(262年) | 18. 湖北鄂州澤林南朝梁陳墓(M9) |
| 4. 江蘇南京郭家山陳重今墓(259年) | 12. 湖北武漢黃陂瀟口吳末晋初墓 | 19. 湖北随県唐鎮曹魏墓 M3 |
| 5. 江蘇揚州胥浦西晋墓 M93(297年) | 13. 湖北武漢江夏流芳東吳晚期墓 | 20. 湖北鄂州塘角頭東吳墓 M2(261年) |
| 6. 江蘇南京西岡吳末晋初墓 | 14. 湖北鄂鋼綜合原料場吳末晋初墓 M30 | 21. 安徽和県西晋太康九年墓(288年) |
| 7. 江蘇泗陽打鼓墩曹魏画像石墓 | 15. 湖北襄樊襄陽魏末晋初墓 | 22. 安徽青陽西晋墓 |
| 8. 江蘇揚州胥浦東吳孫少父墓(M70) | | |

類 型		江 蘇	湖 北	安 徽	
I 型 (单室附耳室)	I-1 長方凸形单室附耳	 1  2	 19	 30	
	I-2 方凸形单室附耳	 3  4			
II 型 (前後双室縱列)	II-1 長方双凸形室縱列	II-1-a 直長方双凸形室縱列	 5  6  7	 20  21	 31
		II-1-b 弧長方双凸形室縱列	 8  9  10	 22  23	
	II-2 前凸後刀形室縱列		 24		
	II-3 長方形双室縱列	 14  15  16	 25  26	 33	
	III 型 (左右双室並列)	III-1 長方双凸形室並列	 17		
III-2 長方形双室並列	 18	 27  28  29			

図五 双室墓類型図

- | | | |
|-------------------------|------------------------|--------------------------|
| 1. 江蘇江寧趙史岡東吳墓 M7 | 12. 江蘇宜興西晉周処墓(297年) | 23. 湖北鄂州石山農機廠西晉墓 M2 |
| 2. 江蘇南京長崗村五号吳末晉初墓 | 13. 江蘇鎮江東晉画像磚墓(398年) | 24. 湖北均県西晉初墓 M2 |
| 3. 江蘇南京郭家山東吳墓 M6 (261年) | 14. 江蘇揚州胥浦吳末晉初墓 M89 | 25. 湖北枝江巫回台東晉中期墓 |
| 4. 江蘇南京大學東晉帝陵 | 15. 江蘇句容西晉元康四年墓(294年) | 26. 湖北公安東晉墓 |
| 5. 江蘇南京幕府山東吳墓 M2 (254年) | 16. 江蘇江寧黃家營東晉墓 M5 | 27. 湖北武漢柏泉農場西晉早期墓 M7 |
| 6. 江蘇南京東善橋東吳墓(274年) | 17. 江蘇南京板橋鎮楊家山西晉墓 | 28. 湖北鄂州塘角頭東晉中晚期墓 M12 |
| 7. 江蘇南京柳塘村西晉墓 (285年) | 18. 江蘇南京富貴山南朝中晚期墓 M3 | 29. 湖北鄂州市澤林齊末梁初墓 M5 |
| 8. 江蘇江寧張家山西晉墓(297年) | 19. 湖北蕪春蕪州土台1号西晉墓 | 30. 安徽合肥東郊西晉墓(M1) |
| 9. 江蘇南京東晉謝鯤墓(324年) | 20. 湖北鄂州鄂城鉄 M105 東吳初期墓 | 31. 安徽馬鞍山東吳朱然墓(249年) |
| 10. 江蘇鎮江東晉墓 M5(333年) | 21. 湖北宜昌一中東吳墓 | 32. 安徽馬鞍山桃冲村西晉墓 M3(308年) |
| 11. 江蘇金壇東方麓東吳墓(260年) | 22. 湖北鄂州塘角頭吳中晚期墓(M4) | 33. 安徽馬鞍山桃冲村西晉墓 M2(316年) |

類 型	江 蘇	湖 北	安 徽
I I-1 直長方凸形			
型 (長方凸形單室) I-2 弧長方凸形			
I-3 長槽凸形			
II II-1 直壁方凸形			
II-2 弧壁方凸形			

類 型	江 蘇	湖 北	安 徽
Ⅲ型 (長方刀形单室)			
Ⅳ 型 (長 方 形 单 室)			
	Ⅳ-2 長方台形		

図六 单室墓類型図

1. 江蘇南京幕府山五鳳元年墓 M1 (254 年)
2. 江蘇南京象山東晉王興之夫婦墓(348 年)
3. 江蘇南京幕府山東晉穆帝永平陵(361 年)
4. 江蘇南京東晉王彬妻夏金虎墓(392 年)
5. 江蘇南京劉宋明曇憺墓(474 年)
6. 江蘇江寧東善橋陳帝陵
7. 江蘇南京仙鶴觀東晉早期高惲夫婦墓
8. 江蘇鎮江東晉墓 M1(325 年)
9. 江蘇南京仙鶴觀高崧夫婦墓(356 年)
10. 江蘇南京司家山謝温墓(406 年)
11. 江蘇南京富貴山東晉恭帝冲平陵(421 年)
12. 江蘇南京劉宋謝琬墓(421 年)
13. 江蘇無錫赤墩里東晉墓(370 年)
14. 江蘇溧陽東晉謝鏐墓(374 年)
15. 江蘇南京西善橋宋孝武帝景寧陵(464 年)
16. 江蘇丹陽齊景帝蕭道生修安陵(494 年)
17. 江蘇丹陽齊和帝蕭寶融恭安陵(502 年)
18. 江蘇南京梁臨川靖惠王蕭宏墓(526 年)
19. 江蘇南京梁南平王蕭偉墓(533 年)
20. 江蘇南京梁永陽昭王蕭敷墓(557 年)
21. 江蘇南京西善橋陳宣帝顯寧陵(582 年)
22. 江蘇南京郭家山東晉早期王氏墓(M4)
23. 江蘇南京東晉始安公温嶠墓(329 年)
24. 江蘇南京象山東晉早期王彬兄王虞墓
25. 江蘇吳興何山東晉墓
26. 江蘇揚州胥浦西晉墓 M94(299 年)
27. 江蘇鎮江東晉中期墓 M20
28. 江蘇揚州胥浦東晉劉宋墓 M13
29. 江蘇南京江寧趙史岡東吳墓 M4
30. 江蘇南京栖霞山甘家巷西晉墓 M10
31. 江蘇鎮江東晉早期墓 M4
32. 江蘇南京象山東晉王丹虎墓(359 年)
33. 湖北宜昌前坪包金頭 三国墓 M9
34. 湖北宜昌樵湖嶺西晉中晚期墓
35. 湖北枝江東晉劉佳墓(345 年)
36. 湖北武昌水果湖劉宋墓 M206(455 年)
37. 湖北武昌水果湖蕭齊墓 M193
38. 湖北房縣郭家庄南齊墓(492 年)
39. 湖北均縣西晉初墓 M1
40. 湖北丹江玉皇廟西晉墓(299 年)
41. 湖北漢陽蔡甸一村西晉墓
42. 湖北鄂州石山農機廠西晉墓 M1
43. 湖北蒲圻赤壁西晉金氏墓(305 年)
44. 湖北武漢金口東晉中期墓 M1
45. 湖北丹江口武當山玉虛宮東晉墓
46. 湖北武昌水果湖劉宋墓 M101(450 年)
47. 湖北鄂城 82 百子畝吳末晉初墓 M18
48. 湖北大冶市河口鎮西晉墓
49. 湖北鄂州五里墩東晉中晚期墓 M2
50. 湖北沔陽城嶺梁天監十七年墓(518 年)
51. 湖北大冶市金龜山南朝墓
52. 湖北鄂州五里墩西晉末東晉墓 M10
53. 湖北鄂州五里墩東晉墓 M7
54. 安徽南陵麻橋東吳墓(245 年)
55. 安徽滁縣全淑吳東吳墓
56. 安徽馬鞍山桃冲村東晉墓 M1

中国魏晉南北朝墳墓

附表

長さ単位: m

江苏省

番号	墳墓名	所在地	時期		形制	埋葬	埋葬施設形態		墓室施設形態		規模(長さ)	参考文献
			西晋	十六国 東晋			墓室	陪葬	墓室	陪葬		
1	南京江寧路安西門外M4	南京	東251年		磚室墓	散葬	方形	前室1	前室1	方墓室	2.9 0.7	李學海1971
2	南京蕭府山五鳳元年墓M1	南京	東254年		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.8 1.7 2.3	文獻88
3	南京蕭府山五鳳元年墓M2	南京	東254年		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.1 1.7 1.7	文獻88
4	南京板橋墓	南京	東254-275		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.5 1.3 2.1	文獻88
5	南京板橋墓	南京	東259年		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.6 1.9 1.4	文獻88
6	南京北郊劉武王墓M6	南京	東261年		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	2.6 3.1 2.1	合葬 文獻93
7	南京西園東晉墓	南京	東265年		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.5 1.9 1.8	合葬 文獻93
8	南京東晉墓M29	南京	東271年		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.5 2 2.1	合葬 文獻93
9	南京東晉墓M29三年墓	南京	東274年		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.4 2 2	合葬 文獻93
10	南京上的元朝元年墓	南京	東275年		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.3 1.7 2.2	李學海1971
11	江寧鎮中陶器M7	江寧	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.4 1.8 2	考古528
12	南京劉伯山墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.6 1.5 1.8	合葬 考古765
13	南京劉伯山墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.2 2 1.2	合葬 考古765
14	南京劉伯山墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.4 1.9 1.8	合葬 考古765
15	南京劉伯山墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.4 2.1 2.1	合葬 考古868
16	南京劉伯山墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	5.3 3.2 1.7	合葬 考古765
17	南京劉伯山墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.9 1.7 0.9	考古936
18	南京劉伯山墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	2.9 0.7 0.8	考古901
19	南京下子門外吳晉墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.6 1.8 1.6	文獻927
20	南京下子門外吳晉墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.4 1.9 2.5	合葬 文獻912
21	江寧縣山吳晉墓	江寧	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.5 2.1 2.3	合葬 考古928
22	江寧縣山吳晉墓	江寧	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4 1.6 0.9	合葬 考古928
23	江寧縣山吳晉墓	江寧	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.9 1.9 2.4	合葬 考古950
24	南京錫子山1号墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.9 1.9 2.4	合葬 考古858
25	南京錫子山1号墓	南京	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.6 2.2 2.1	文獻927
26	江寧鎮中陶器	江寧	東		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.9 1.6 1.8	合葬 考古936
27	板橋鎮西平沈煥太守侯公墓	南京	302年		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4 1.9 2.9	合葬 考古936
28	南京板橋西晉永興二年墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.9 1.8 1.3	合葬 考古936
29	南京中興門外板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4 2.1 2.2	合葬 考古936
30	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.9 1.8 1.3	合葬 考古936
31	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4 2.1 2.2	合葬 考古936
32	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.9 1.8 1.3	合葬 考古936
33	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.1 2.1 2.1	合葬 考古936
34	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.9 1.8 1.3	合葬 考古936
35	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.1 2.1 2.1	合葬 考古936
36	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.9 1.8 1.3	合葬 考古936
37	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4 2.1 2.2	合葬 考古936
38	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.7 1.4 2.1	合葬 考古936
39	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4 3.8 3.4	合葬 考古936
40	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.4 4	合葬 考古936
41	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	3.9 3.2 3.4	合葬 考古936
42	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4 3.7 3.2	合葬 考古936
43	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.8 3 3.4	合葬 考古936
44	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.8 2.1 2.4	合葬 考古936
45	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.2 1.2 1.5	合葬 考古936
46	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	4.5 2 2.3	合葬 考古936
47	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室	5 3.6 4.3	合葬 考古936
48	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室		
49	南京板橋西晉墓	南京	西晋		南漢式六磚室墓	散葬	方凸形墓室	前室1	前室1	方墓室		

中国魏晉南北朝墳墓

附表

長x単位:m

湖北省

番号	墳墓名	所在地	時期			埋葬施設形態			墓室施設形態			規模(長さ)			参考文献			
			西晋	東晋	南朝	種類	表層構造	形式	構造	門	墓室	棺床	祭台	墓頂		墓室面	長さ	幅
1	鄂城東吳皇武六年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1	1	前室	前室	前室	3	1.7	1.6	合葬	鄂523
2	武昌任家灣吳皇武六年墓	鄂州	272年			甬道式	封土	長方形石室	1	1	前室	前室	前室	3	1.6			鄂512
3	武昌盛家灣晉皇武六年墓	鄂州	249年			甬道式	封土	長方形石室	3.2	1	前室	前室	前室	5	2.6	2.8		鄂511
4	武昌盛家灣晉皇武六年墓	鄂州	東吳(終)			甬道式	封土	長方形石室	1.6	1	前室	前室	前室	4.4	2.7	2.4		鄂511
5	鄂城東吳皇武六年墓	鄂州	東吳			甬道式	封土	長方形石室	2.9	1.3	前室	前室	前室	3.2	1.5			鄂512
6	鄂城東吳皇武六年墓	鄂州	東吳			甬道式	封土	長方形石室	0.7	1	前室	前室	前室	3.5	1.1	1.9		鄂511
7	鄂州楊角頭吳皇武六年墓	鄂州	吳(中)			甬道式	封土	長方形石室	0.8	1	前室	前室	前室	3.6	1.1	1.9		鄂511
8	鄂州楊角頭吳皇武六年墓	鄂州	吳(中)			甬道式	封土	長方形石室	0.8	1	前室	前室	前室	3.6	1.1	1.9		鄂511
9	鄂州楊角頭吳皇武六年墓	鄂州	吳(中)			甬道式	封土	長方形石室	0.8	1	前室	前室	前室	3.6	1.1	1.9		鄂511
10	鄂州楊角頭吳皇武六年墓	鄂州	吳(中)			甬道式	封土	長方形石室	0.8	1	前室	前室	前室	3.6	1.1	1.9		鄂511
11	鄂州楊角頭吳皇武六年墓	鄂州	吳(中)			甬道式	封土	長方形石室	0.8	1	前室	前室	前室	3.6	1.1	1.9		鄂511
12	武昌漢武帝永安五年墓	武漢	202年			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
13	江夏漢武帝永安五年墓	武漢	漢(中)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
14	江夏漢武帝永安五年墓	武漢	漢(中)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
15	鄂城東吳皇武六年墓	鄂州	東吳(終)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
16	鄂城東吳皇武六年墓	鄂州	東吳(終)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
17	鄂州五里坡晉皇武六年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
18	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
19	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
20	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
21	鄂州西漢武帝永安五年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
22	鄂州西漢武帝永安五年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
23	鄂州西漢武帝永安五年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
24	鄂州西漢武帝永安五年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
25	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
26	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
27	鄂州西漢武帝永安五年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
28	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
29	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
30	大冶西漢武帝永安五年墓	大冶	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
31	鄂州西漢武帝永安五年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
32	鄂州西漢武帝永安五年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
33	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
34	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
35	鄂城東吳皇武六年墓	鄂州	東吳(終)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
36	鄂城東吳皇武六年墓	鄂州	東吳(終)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
37	鄂城東吳皇武六年墓	鄂州	東吳(終)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
38	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
39	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
40	鄂州西漢武帝永安五年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
41	鄂州西漢武帝永安五年墓	鄂州	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
42	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
43	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
44	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
45	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
46	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511
47	武昌西漢武帝永安五年墓	武漢	西晋(物)			甬道式	封土	長方形石室	1.5	1	前室	前室	前室	3.6	1.7			鄂511

中国魏晉南北朝墳墓

安徽省

長さ単位:m

附表

番号	墳墓名	所在地		時期		埋葬施設形態		埋葬施設形態		規模(数量)		参考文献		
		三學	西晉	十六國	東晉	種類	形 式	墓室施設	形 式	長	幅		深	
1	南陽西漢張氏去奢八年墓(M3)	248年	西晉			南陽西漢張氏墓	墓前碑	墓前碑	墓室	前室2	4.8	1.6	2.4	考古54.11
2	馬鞍山張氏永安墓	248年				南陽西漢張氏墓	墓前碑	墓前碑	墓室		4.1	2.3	2.3	合葬 文物58.63
3	馬鞍山張氏永安墓	東吳				南陽西漢張氏墓	文字碑	文字碑	墓室		3.4	1.5	1.5	考古59.75
4	淮南西晉墓	東吳				南陽西漢張氏墓	墓前碑	墓前碑	墓室		4.2	1.6	2.2	
5	淮南西晉墓	西晉(準)				南陽西漢張氏墓	墓前碑	墓前碑	墓室		3.7	2.9	1.3	考古52.11
6	和縣西晉大墓九年墓	288年				南陽西漢張氏墓	墓前碑	墓前碑	墓室		3.1	1.5	1.4	考古54.9
7	馬鞍山張冲村西晉墓M3	308年				南陽西漢張氏墓	墓前碑	墓前碑	墓室		3.7	1.7	1.4	文物53.11
8	馬鞍山張冲村西晉墓M2	316年				南陽西漢張氏墓	墓前碑	墓前碑	墓室		4.8	1.7	2.5	考古57.1
9	合肥東郊西晉墓(M1)		西晉			南陽西漢張氏墓	墓前碑	墓前碑	墓室		4.8	1.7	2.5	考古57.1
10	合肥東郊西晉墓(M3)		西晉			南陽西漢張氏墓	墓前碑	墓前碑	墓室		4.8	1.7	2.5	考古57.1
11	馬鞍山張冲村西晉墓M1		東晉			南陽西漢張氏墓	墓前碑	墓前碑	墓室		4.8	1.7	2.5	文物53.11

【参考文献】

- (1) 羅宗真「六朝陵墓埋葬制度綜述」『中国考古学会第一次年会論文集』 文物出版社 1979年
- (2) 羅宗真『六朝考古』 南京大学出版社 1996年
- (3) 蔣贊初「長江中游六朝墓葬的分期和断代」『中国考古学会第三次年会論文集』 文物出版社 1984年
- (4) 蔣贊初「関于長江下游六朝墓葬的分期和断代問題」『中国考古学会第二次年会論文集』 文物出版社 1982年
- (5) 蔣贊初「南京東晉帝陵考」『華夏考古』1993年 1期
- (6) 李蔚然「南京六朝墓葬」『文物』1959年 4期
- (7) 李蔚然「論南京地区六朝墓的葬地選址和排葬方法」『考古』1983年 4期
- (8) 馮普仁「南朝墓葬的類型與分期」『考古』1985年 3期
- (9) 徐萃芳「中国秦漢魏晋南北朝時代の陵園和塋域」『考古』1981年 6期
- (10) 楊泓「三国考古の新發現」『文物』1986年 3期
- (11) 葉驍軍「中国墓葬發展史」甘肅文化出版社 1994年
- (12) 吳県文物管理委員会・張志新「江蘇吳県獅子山西晋墓清理簡報」『文物資料叢刊』3輯 (1980年)
- (13) 南京市博物館「江蘇南京鄧府山吳墓和柳塘村西晋墓」『考古』1992年 8期
- (14) 安徽省文物工作隊・和県文物組「安徽和県西晋紀年墓」『考古』1984年 9期
- (15) 南京市博物館「南京郊吳四座吳墓發掘簡報」『文物資料叢刊』8輯 (1983年)
- (16) 南京市博物館「江蘇南京市北郊郭家山東吳紀年墓」『考古』1998年 8期
- (17) 胥浦六朝墓發掘隊「揚州胥浦六朝墓」『考古學報』1988年 2期
- (18) 武漢市文物管理委員会「武昌任家湾六朝初期墓葬清理簡報」『文物』1955年12期
- (19) 程欣人「武漢出土的兩塊東吳鉛券積文」『考古』1965年10期
- (20) 鄂州博物館・湖北省文物考古研究所「湖北鄂州鄂鋼飲料廠一号墓發掘報告」『考古學報』1998年 1期
- (21) 鄂城県博物館「鄂城東吳孫將軍墓」『考古』1978年 3期
- (22) 湖北省文物管理委員会「武昌蓮溪寺東吳墓清理簡報」『考古』1959年 4期
- (23) 武漢市博物館「武漢黃陂滙口古墓清理簡報」『文物』1991年 6期
- (24) 襄樊市博物館・棗陽市博物館「湖北棗陽市王湾魏晋墓清理簡報」『江漢考古』1993年 4期
- (25) 南波「南京西崗西晋墓」『文物』1976年 3期
- (26) 武漢市博物館・江夏区文物管理所「江夏流芳東吳墓清理發掘報告」『江漢考古』1998年 3期
- (27) 淮陰市博物館・泗陽県図書館「江蘇泗陽打鼓墩樊氏画像石墓」『考古』1992年 9期
- (28) 鄂州市博物館「鄂鋼綜合原料場M30發掘簡報」『江漢考古』1995年 3期
- (29) 襄樊市博物館「湖北襄陽城內三国時期的多室墓清理報告」『江漢考古』1995年 3期
- (30) 通城県博物館「湖北通城高冲錢塘山二号墓發掘簡報」『江漢考古』1992年 2期
- (31) 朱獻雄「安徽青陽県清理一座西晋殘墓」『考古』1992年11期

- (32) 老河口市博物館「湖北老河口市李樓西晉紀年墓」『考古』1998年2期
- (33) 武漢大學歷史系考古專業・鄂州市博物館「鄂州市澤林南朝墓」『江漢考古』1991年3期
- (34) 湖北省文物管理委員會「湖北隨縣唐鎮漢魏墓清理」『考古』1966年2期
- (35) 湖北省文物考古研究所・鄂州市博物館「湖北鄂州市塘角頭六朝墓」『考古』1996年11期
- (36) 江蘇省文物管理委員會「南京近郊六朝墓的清理」『考古學報』1957年1期
- (37) 南京市博物館「南京長崗村五號墓發掘簡報」『文物』2002年7期
- (38) 張壽來「湖北蕪春縣蕪州土台一號墓」『考古』1989年11期
- (39) 安徽省博物館清理小組「安徽合肥東郊古磚墓清理簡報」『考古』1957年1期
- (40) 南京大學歷史系考古組「南京大學北園東晉墓」『文物』1973年4期
- (41) 南京博物院・南京市文物保管委員會「南京栖霞山甘家巷六朝墓群」『考古』1976年5期
- (42) 南京市博物館・江寧縣博物館「南京市東善橋“鳳凰三年”東吳墓」『文物』1999年4期
- (43) 南京市博物館「江蘇江寧官家山六朝早期墓」『文物』1986年12期
- (44) 南京博物院「江蘇江寧縣張家山西晉墓」『考古』1985年10期
- (45) 南京市文物保管委員會「南京板橋鎮石閣湖晉墓清理簡報」『文物』1965年6期
- (46) 南京市文物保管委員會「南京戚家山東晉謝鯤墓簡報」『文物』1965年6期
- (47) 鎮江博物館・劉建國「鎮江東晉墓」『文物資料叢刊』8輯(1983年)
- (48) 鄂城縣博物館「湖北鄂城四座吳墓發掘報告」『考古』1982年3期
- (49) 湖北省博物館「宜昌市一中三國吳墓清理簡報」『江漢考古』1983年2期
- (50) 湖北省博物館「鄂城兩座晉墓的發掘」『江漢考古』1984年3期
- (51) 安徽省文物考古研究所・馬鞍山市文化局「安徽馬鞍山東吳朱然墓發掘簡報」『文物』1986年3期
- (52) 常州市博物館・金壇縣文管會「江蘇金壇縣方麓東吳墓」『文物』1989年8期
- (53) 羅宗真「江蘇宜興晉墓發掘報告」『考古學報』1957年4期
- (54) 吳縣文物管理委員會「江蘇吳縣獅子山四號西晉墓」『考古』1983年8期
- (55) 鎮江市博物館「鎮江東晉画像磚墓」『文物』1973年4期
- (56) 馬鞍山市文物管理所・馬鞍山市博物館「安徽馬鞍山桃沖村三座晉墓清理簡報」『文物』1993年11期
- (57) 湖北省文物管理委員會「湖北均縣“雙塚”清理簡報」『考古』1965年12期
- (58) 南波「江蘇句容西晉元康四年墓」『考古』1976年6期
- (59) 江蘇省文物管理委員會「江寧縣黃家營第五號六朝墓清理簡報」『文物』1956年1期
- (60) 宜昌地區博物館「湖北枝江巫回台東晉墓的發掘」『江漢考古』1983年1期
- (61) 荊州專區博物館「公安縣發現一座晉墓」『文物』1966年3期
- (62) 南京市博物館・南京市雨花台区文管會「江蘇南京市板橋鎮楊家山西晉雙室墓」『考古』1998年8期
- (63) 南京市博物館・南京市玄武區文化局「江蘇南京市富貴山六朝墓地發掘簡報」『考古』1998年8期
- (64) 武漢市博物館・東西湖區文化局「武漢市東西湖柏泉農場古墓群清理簡報」『江漢考古』1998年1期

- (65) 黄冈市博物館「黄冈鋁廠南朝墓葬」『江漢考古』1997年4期
- (66) 南京市博物館「南京獅子山、江寧索墅西晉墓」『考古』1987年7期
- (67) 南京市文物保管委員會「南京人台山東晉興之夫婦墓發掘報告」『文物』1965年6期
- (68) 華東文物工作隊「南京幕府山六朝墓清理簡報」『文物』1956年6期
- (69) 南京市博物館「南京象山5号、6号、7号墓清理簡報」『文物』1972年11期
- (70) 南京市博物館考古組「南京郊区三座東晉墓」『考古』1983年4期
- (71) 南京市文物管理委員會「南京太平門外劉宋明曇禧墓」『考古』1976年1期
- (72) 吳学文「江蘇江寧東善橋南朝墓」『考古』1978年2期
- (73) 長辦庫区処紅花套考古工作站「湖北宜昌前坪包金頭東漢、三国墓」『考古』1990年9期
- (74) 宜昌市文物處「宜昌市六朝墓清理簡報」『江漢考古』1984年1期
- (75) 宜昌地区博物館・枝江県博物館「湖北枝江県拽車廟東晉永和元年墓」『考古』1990年12期
- (76) 湖北省博物館「武漢地区四座南朝紀年墓」『考古』1965年4期
- (77) 房県博物館「房県郭家庄南齊紀年墓發掘簡報」『江漢考古』1992年3期
- (78) 黄陂県文化館「湖北黄陂横店南朝墓清理記」『考古』1991年1期
- (79) 安徽省文物工作隊「安徽南陵県麻橋東吳墓」『考古』1984年11期
- (80) 安徽省文物考古研究所「安徽馬鞍山市佳山東吳墓清理簡報」『考古』1986年5期
- (81) 滁州市文物管理所・朱振文「安徽全椒県卜集東吳磚室墓」『考古』1997年5期
- (82) 南京市博物館「江蘇南京仙鶴觀東晉墓」『文物』2001年3期
- (83) 南京市博物館・雨花区文化局「南京南郊六朝謝温墓」『文物』1998年5期
- (84) 南京博物院「南京富貴山東晉墓發掘報告」『考古』1966年4期
- (85) 南京市博物館・雨花区文化局「南京南郊六朝謝琬墓」『文物』1998年5期
- (86) 无錫市博物館「无錫赤墩里東晉墓」『考古』1985年11期
- (87) 南京博物院「江蘇溧陽果園東晉墓」『考古』1973年4期
- (88) 鎮江博物館「江蘇鎮江諫壁磚瓦廠東晉墓」『考古』1988年7期
- (89) 南京博物院・南京市文物保管委員會「南京西善橋南朝墓及其磚刻壁画」『文物』1960年8-9期
- (90) 南京博物院「江蘇丹陽胡橋南朝大墓及磚刻壁画」『文物』1974年2期
- (91) 南京博物院「江蘇丹陽胡橋、建山兩座南朝墓葬」『文物』1980年2期
- (92) 南京市博物館・栖霞区文管會「江蘇南京市白龍山南朝墓」『考古』1998年8期
- (93) 南京博物院「南京堯化門南朝梁墓發掘簡報」『文物』1981年12期
- (94) 金琦「南京甘家巷和童家山六朝墓」『考古』1963年6期
- (95) 南京市博物館「南京西善橋南朝墓」『文物』1993年11期
- (96) 羅宗真「南京西善橋油坊村南朝大墓的發掘」『考古』1963年6期
- (97) 南京市博物館「南京北郊郭家山東晉墓葬發掘簡報」『文物』1981年12期

- (98) 南京市博物館「南京北郊東晉温嶠墓」『文物』2002年7期
- (99) 南京博物院「江蘇吳縣何山東晉墓」『考古』1987年3期
- (100) 湖北省考古所・十堰市博物館・丹江口市博物館「丹江口市玉皇廟漢晉墓發掘簡報」『江漢考古』2001年1期
- (101) 湖北省博物館「湖北漢陽蔡甸一號墓清理」『考古』1966年4期
- (102) 蒲圻赤壁西晉考古發掘隊「蒲圻赤壁西晉紀年金氏墓」『江漢考古』1992年4期
- (103) 武漢市考古隊・武昌縣文管所「武昌縣金口漢晉墓發掘簡報」『江漢考古』1994年3期
- (104) 武当山文物管理所「武当山玉虛宮教兵場內南北朝墓葬清理簡報」『江漢考古』1997年4期
- (105) 南京市文物保管委員會「南京象山東晉王丹虎墓和二、四號墓發掘簡報」『文物』1965年10期
- (106) 鄂州市博物館「湖北鄂城吳晉墓發掘簡報」『考古』1991年7期
- (107) 大冶市博物館「大冶河口鎮六朝早期墓」『江漢考古』1999年2期
- (108) 鄂州市博物館「鄂州市五里墩晉墓發掘簡報」『江漢考古』1993年4期
- (109) 應城市博物館「應城楊嶺新四磚瓦廠南朝墓清理簡報」『江漢考古』1990年2期
- (110) 大冶市博物館「大冶市六朝墓清理簡報」『江漢考古』1997年4期
- (111) 南京市博物館「南京幕府山東晉墓」『文物』1990年8期
- (112) 南京市博物館「南京北郊東晉墓發掘簡報」『考古』1983年4期